



京都大学理学部主催のCOCOUS-R中間発表会に参加

8月8日(火)～9日(水)にかけて、京都大学(吉田キャンパス)で行われたCOCOUS-R中間発表会に、2年生環境科学科の中村周音さんと三好莉央奈さんが参加してきました。COCOUS-Rとは、京都大学理学部主催の理学探究活動推進のための高大接続事業で、女子高校生1～3名と京都大学理学部生・大学院生2名がチームとなり探究活動を進めていく取組です。期間は2023年2月～2024年3月までの14か月間です。この間、月2回程度、平日の放課後にオンラインにて大学生・大学院生との探究活動について会議を行うほか、掲示板ツール(Slack)で随時情報交換を行います。昨年度2月の募集に申し込み、本校を含む全国のSSH指定校21校が参加しました。本校から参加した中村さんと三好さんは、地球温暖化やマイクロプラスチック等の環境問題に関心があったことから、分解性能の高い生分解性プラスチックの作成を目指して「カゼインプラスチックの分解性を高める」をテーマに課題研究に取り組んでいます。バイオ由来のカゼインプラスチックは分解後、水と二酸化炭素になるものの分解速度が遅いことが欠点であり、この分解速度を高めることが研究の狙いです。



色素分離実験のようす

8月8日(火)は、各校が取組んでいる課題研究についての口頭発表とポスターセッションが行われました。8月9日(水)は、薄層クロマトグラフィーにより色素の分離実験をさせていただきました。その後、参加校の生徒たちによる交流も行われました。



口頭発表のようす



ポスター発表のようす



1年生「向陽防災科学講座Ⅰ」

9月1日(金)、高校1年生を対象に「向陽防災科学講座Ⅰ」を実施しました。和歌山地方気象台の辻晶夫様にお越しいただき、「防災と減災のための防災気象情報の利用」と題して、講演していただきました。防災と減災からはじまり、地震・津波・大雨・線状降水帯、また気象台のお仕事の話など、たくさんの内容を教えていただきました。以下、生徒の感想です。『予測が不可能な地震や津波などの自然災害の被害を0にしようとして「防ぐ」よりも、人の命を最優先に、小さなことから大きなことまで被害を「減らす」という考え方は新鮮でした。』

